

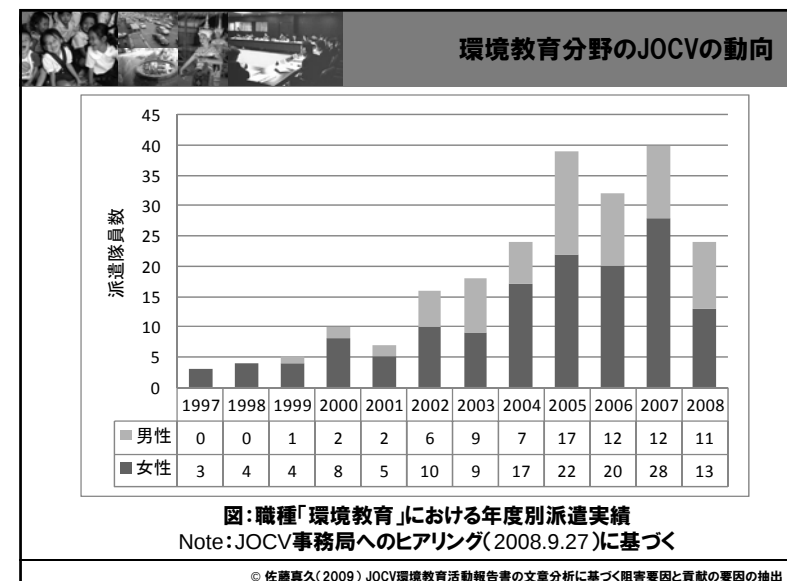
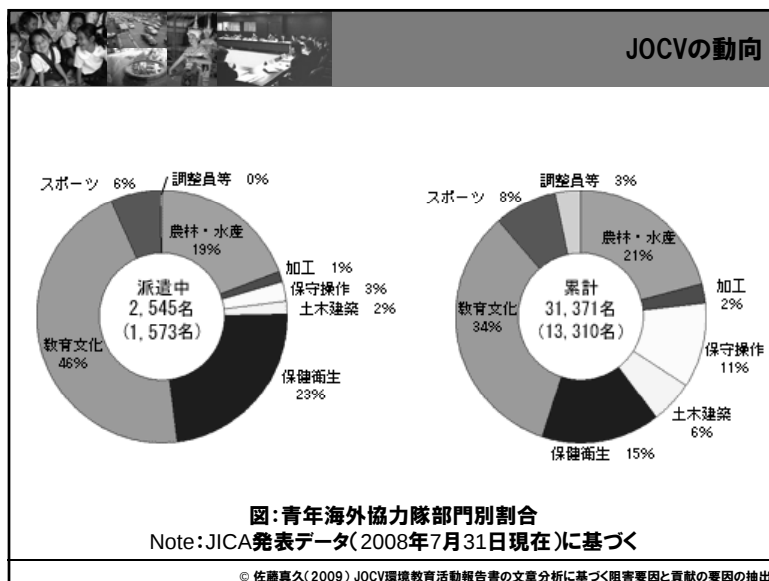
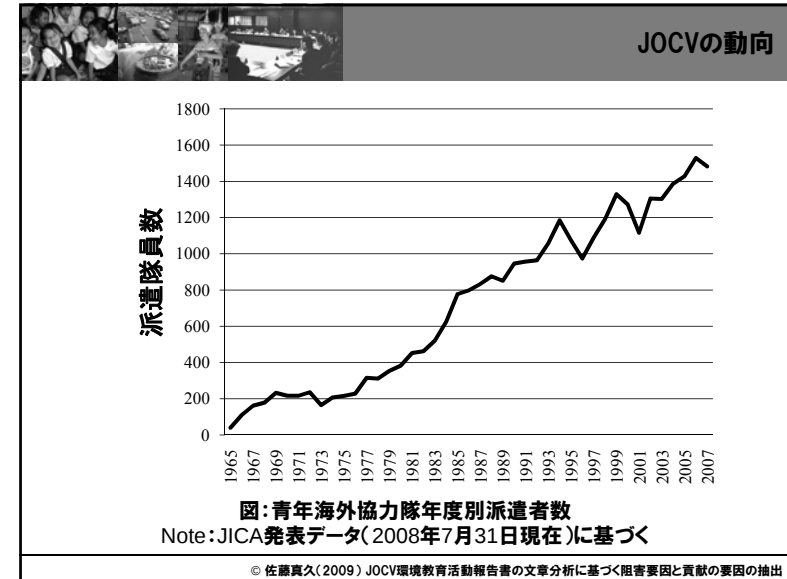


**JOCV環境教育活動報告書の
文章分析に基づく阻害要因と
貢献の要因の抽出**

2009年4月7日
筑波大学

佐藤真久¹
¹東京都市大学 環境情報学部

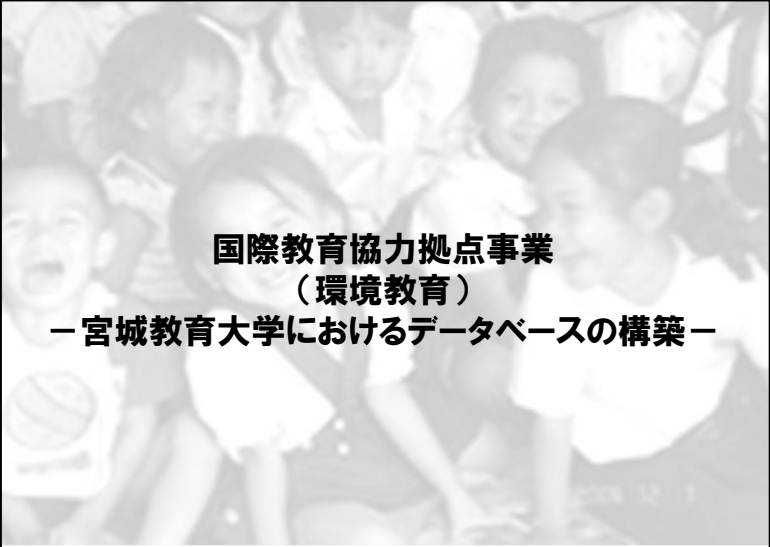
© 佐藤真久(2009) JOCV環境教育活動報告書の文章分析に基づく阻害要因と貢献の要因の抽出



環境教育分野のJOCVの動向			
()内は女性隊員	派遣中	帰国	累計
アジア地域	19(10)	26(19)	45(29)
中東地域	5(3)	6(2)	11(5)
アフリカ地域	17(12)	25(18)	42(30)
北米中南米地域	30(19)	67(46)	97(65)
大洋州地域	12(8)	13(6)	25(14)
欧州地域	1(0)	0(0)	1(0)
派遣人数合計	84(52)	137(91)	221(143)
派遣国数合計	31(24)	38(33)	43(40)

表：職種「環境教育」における地域別派遣実績
Note: JOCV事務局へのヒアリング(2008.9.27)に基づく

© 佐藤真久(2009) JOCV環境教育活動報告書の文章分析に基づく阻害要因と貢献の要因の抽出



**国際教育協力拠点事業
(環境教育)**
－宮城教育大学におけるデータベースの構築－

© 佐藤真久(2009) JOCV環境教育活動報告書の文章分析に基づく阻害要因と貢献の要因の抽出



**宮城教育大学教育協力
拠点形成事業プロジェクト**

**■宮城教育大学教育協力拠点形成事業プロジェクト
(宮教大拠点プロジェクト)**

青年海外協力隊員の海外における教育活動を支援する目的

- ①派遣現職教員に対する派遣前研修
- ②派遣中隊員への教材情報支援とQandAによる指導助言
- ③帰国教員に対する学校教育支援
(特に海外教育経験を活用した国際理解教育の支援)

© 佐藤真久(2009) JOCV環境教育活動報告書の文章分析に基づく阻害要因と貢献の要因の抽出



**宮教大拠点プロジェクトが
開発している各種環境教育データベース**

隊員の教育に役立つ教材・素材の提供
事例活用方法の指導・助言

■日本の最新の環境教育情報

■正確な環境教育用語

■多くの隊員が使える素材集

■日本の教育資源
Data Base

途上国の教育協力

■学校で扱える科学実験
(素材集の一部)

青年海外協力隊員に提供
環境教育分野以外の職種の活動支援
派遣前における研修で活用方法を指導

■青年海外協力隊活動報告

© 佐藤真久(2009) JOCV環境教育活動報告書の文章分析に基づく阻害要因と貢献の要因の抽出



研究対象

■宮城教育大学教育協力拠点形成事業プロジェクト

- ①環境教育実践事例データベース
- ②青年海外協力隊活動データベース(隊員のみ利用可能)
- ③環境教育関連用語データベース
- ④教育計画支援素材集データベース

■JOCV環境教育活動報告書(1999-2007)の文章分析



青年海外協力隊
活動データベース

© 佐藤真久(2009) JOCV環境教育活動報告書の文章分析に基づく阻害要因と貢献の要因の抽出



研究アプローチ

青年海外協力隊
活動データベース

JOCV環境教育
活動報告書
(1999-2007)
65件対象
(データベースに基づく)

■通し番号
■隊員番号
■任期
■派遣国
■地域分類
■配属先
■配属先属性
■活動内容
■活動形態
■活動目標
■活動目標(配属後)
■環境教育の方法

アジア地域の
JOCV環境教育
活動報告書
(1999-2007)
14件対象
(1-5号報告書)

①分析対象項目に基づく要点整理
②分類項目に基づく要点抽出
③動向の把握

①阻害要因の抽出
②分類項目に基づく要点抽出
③重要項目の選定

■前提条件
■実施背景
■個人能力
■組織能力
■市民能力
■社会支援

© 佐藤真久(2009) JOCV環境教育活動報告書の文章分析に基づく阻害要因と貢献の要因の抽出



分析フレームワーク:① JOCVの 環境教育活動の全体的動向の把握

■全体的動向の把握にむけた分析対象項目と分類項目

分析対象項目	分類項目
(1) 通し番号	—
(2) 隊員番号	—
(3) 任期	※隊員が配属された期間
(4) 派遣国	※隊員が派遣された国名
(5) 地域分類	(1) アジア、(2) アフリカ、(3) 大洋州、(4) 中近東、(5) 中南米・カリブ
(6) 配属先	※隊員の赴任場所
(7) 配属先属性	(1) 首都、(2) 都市、(3) 地方
(8) 活動内容	(1) 学校教育、(2) 住民教育、(3) 環境教育、(4) 行政支援、 (5) 業務支援、(6) 業務推進、(7) その他
(9) 活動形態	(1) 村落型、(2) 教室型、(3) 現場勤務型、(4) 本庁・試験場型
(10) 活動目標	※隊員配属前の活動目標
(11) 活動目標(配属後)	※隊員配属後の活動目標
(12) 環境教育の方法	(1) 情報提供、(2) コミュニケーション、(3) 教育、 (4) 組織能力の向上、(5) 市民能力の向上

© 佐藤真久(2009) JOCV環境教育活動報告書の文章分析に基づく阻害要因と貢献の要因の抽出

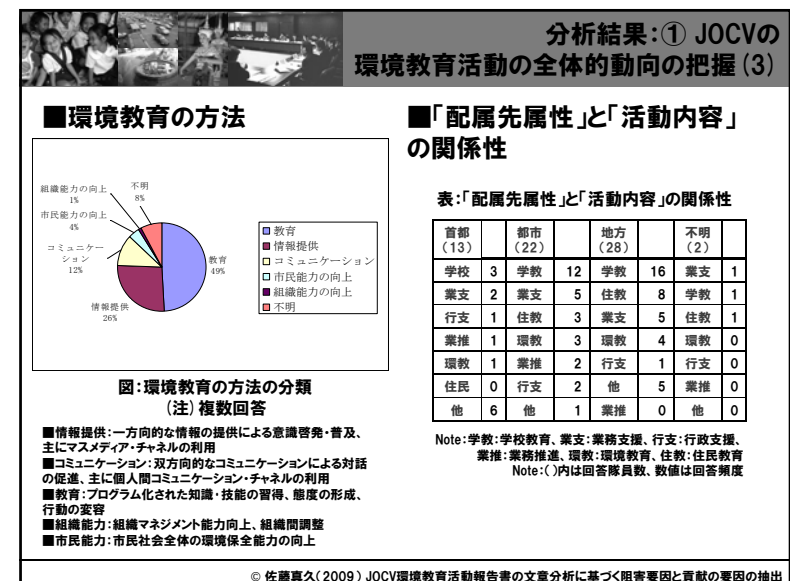
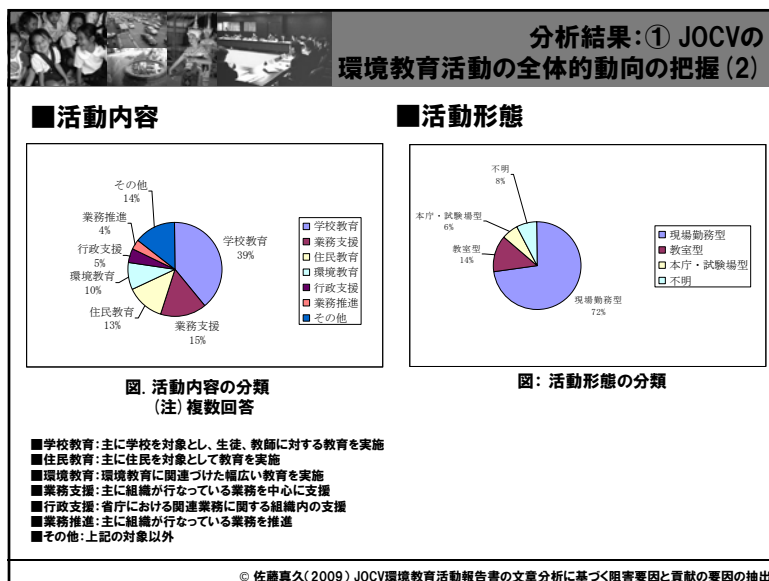
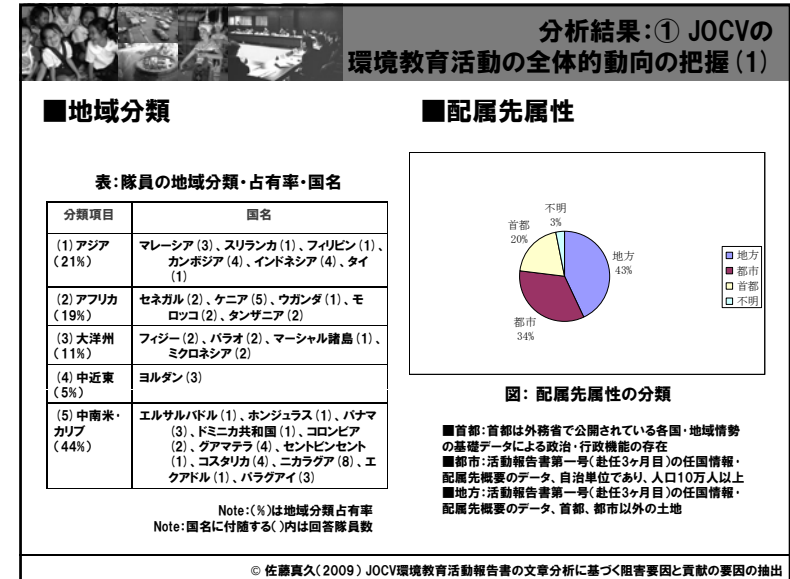
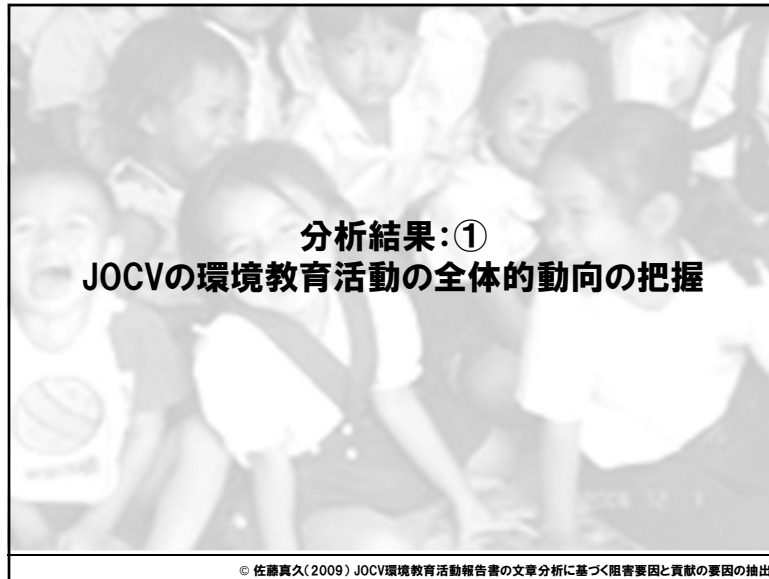


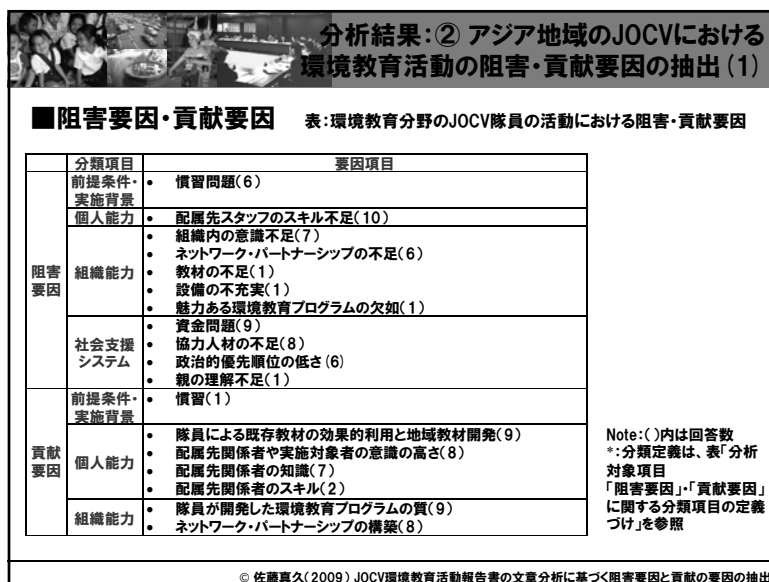
分析フレームワーク:② アジア地域のJOCVにおける 環境教育活動の阻害・貢献要因の抽出

■分析対象項目「阻害要因」「貢献要因」に関する 分類項目の定義づけ

分析対象項目	分類項目	定義づけ
(1)阻害要因	(1) 前提条件・実施背景	●対象とする社会、地域、個人、組織において、プロジェクトを実施した際にある条件や、社会の背景に関係している内容を対象
	(2) 個人能力	●対象とする個人の知識や技能に関係
	(3) 組織能力	●対象とする組織全体のプロジェクト関与の状況やネットワーク、組織が実施しているプログラムの内容といった項目
(2)貢献要因	(4) 市民能力	●対象とする地域住民のプロジェクト関与の状況や住民全体の知識に関係
	(5) 社会支援システム	●対象とする社会の支援システムに関係
	(6) その他	

© 佐藤真久(2009) JOCV環境教育活動報告書の文章分析に基づく阻害要因と貢献の要因の抽出







JOCV環境教育プロジェクト
阻害・貢献要因シミュレーション教材開発 (1)

【教材名】	JOCV環境教育プロジェクト阻害・ 貢献要因シミュレーション教材 (Version1.0)
【フォーマット】	カードゲーム
【教材タイプ】	参加型教材
【教材開発者】	武蔵工業大学環境情報学部 佐藤真久研究室
【教材開発年】	2008年度
【教材の目的】	環境教育のJOCV隊員が実施予定の プロジェクトにおいて想定される阻害・ 貢献要因と要因項目を把握し、 課題解決にむけたシミュレーションを 通して、実施にむけた準備を行うこと
【教材の対象】	JOCV環境教育分野隊員 (派遣前・派遣中)、ほか
【教材のテーマ】	JOCV環境教育プロジェクトによる 阻害・貢献要因

■カリキュラ・ユニット

■教材開発デザイン
(佐藤研究室ゼミ生)

© 佐藤真久(2009) JOCV環境教育活動報告書の文章分析に基づく阻害要因と貢献の要因の抽出

JOCV環境教育プロジェクト
阻害・貢献要因シミュレーション教材開発 (2)

■教材開発風景
(佐藤研究室ゼミ生)

■開発されたシミュレーション教材

© 佐藤真久(2009) JOCV環境教育活動報告書の文章分析に基づく阻害要因と貢献の要因の抽出

**JOCV環境教育プロジェクト
阻害・貢献要因シミュレーション教材利用(1)**



**■JOCV隊員(環境教育)を対象とした
活動手法研修における教材利用風景**
(JOCV活動手法研修@二本松 2008年8月1日 三好直子技術顧問による研修実施)

© 佐藤真久(2009) JOCV環境教育活動報告書の文章分析に基づく阻害要因と貢献の要因の抽出

関連資料一式

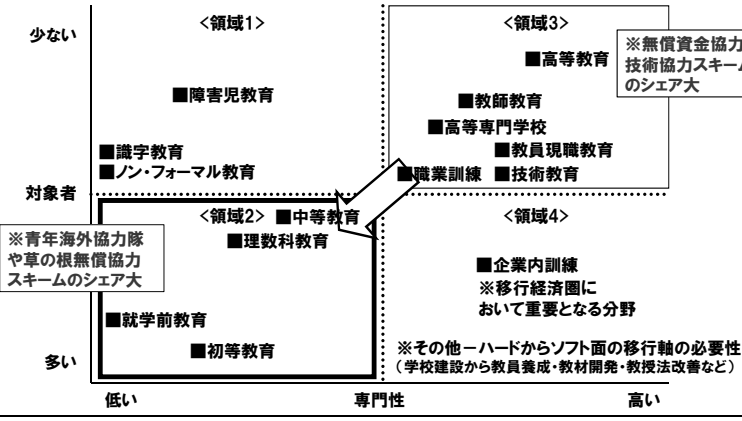


© 佐藤真久(2009) JOCV環境教育活動報告書の文章分析に基づく阻害要因と貢献の要因の抽出

参考:日本の国際教育協力の動向

■教育協力分野の類型と日本の国際教育協力の動向

内海成治
『国際教育協力論』
世界思想社



<領域1>
■障害児教育

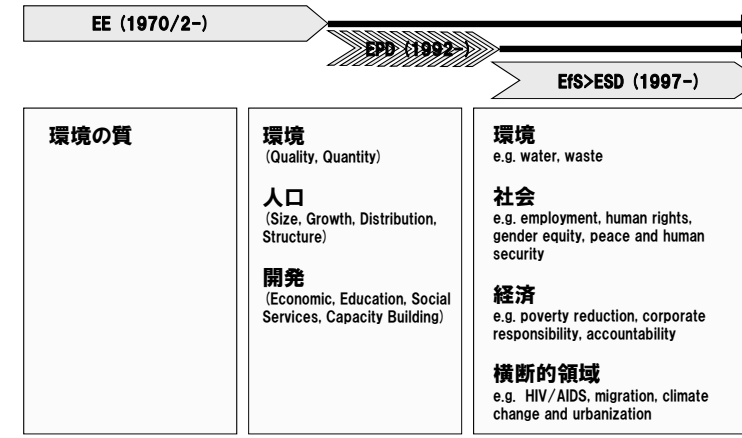
<領域2>
■識字教育
■ノン・フォーマル教育
※青年海外協力隊
や草の根無償協力
スキームのシェア大

<領域3>
■高等教育
■教師教育
■高等専門学校
■教員現職教育
■職業訓練
■技術教育
※無償資金協力・
技術協力スキーム
のシェア大

<領域4>
■企業内訓練
※移行経済圏に
おいて重要となる分野
※その他ーハードからソフト面の移行軸の必要性
(学校建設から教員養成・教材開発・教授法改善など)

© 佐藤真久(2009) JOCV環境教育活動報告書の文章分析に基づく阻害要因と貢献の要因の抽出

**参考:環境教育の歴史的進展
～視点・テーマの歴史的変化**



EE (1970/2-)

環境の質

EPD (1992-)

環境
(Quality, Quantity)

人口
(Size, Growth, Distribution, Structure)

開発
(Economic, Education, Social Services, Capacity Building)

Efs>ESD (1997-)

環境
e.g. water, waste

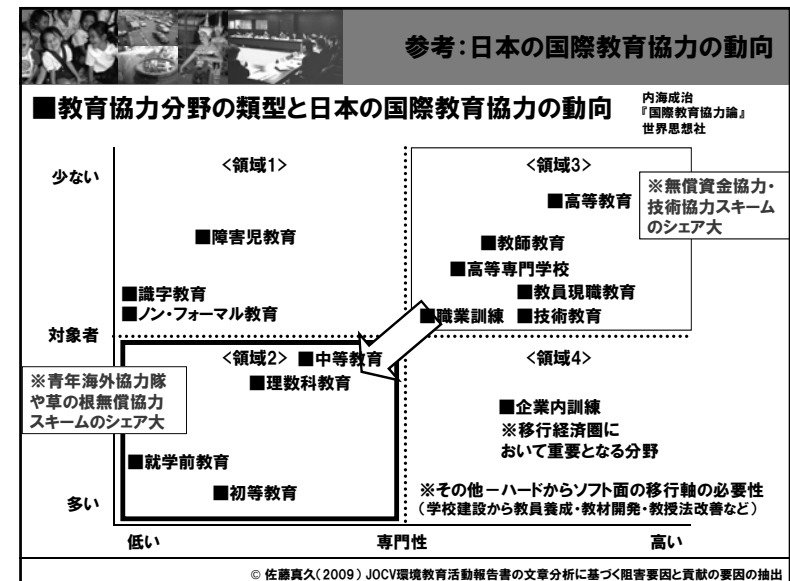
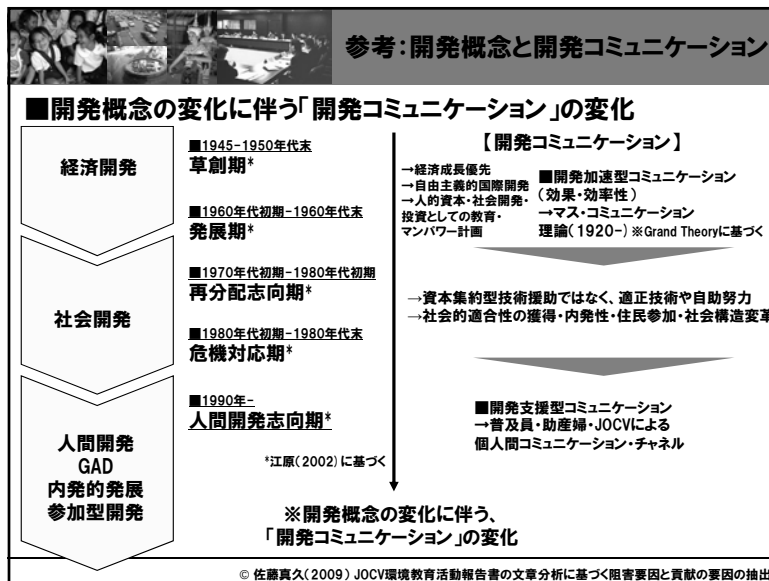
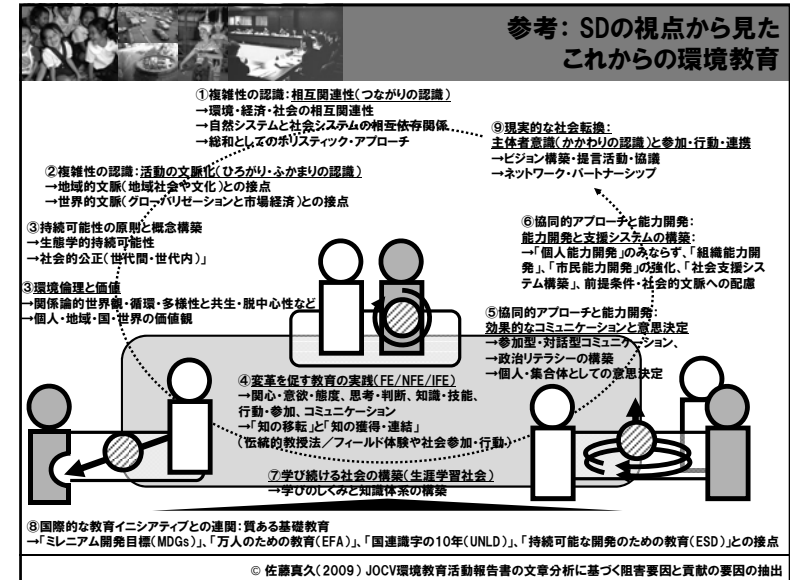
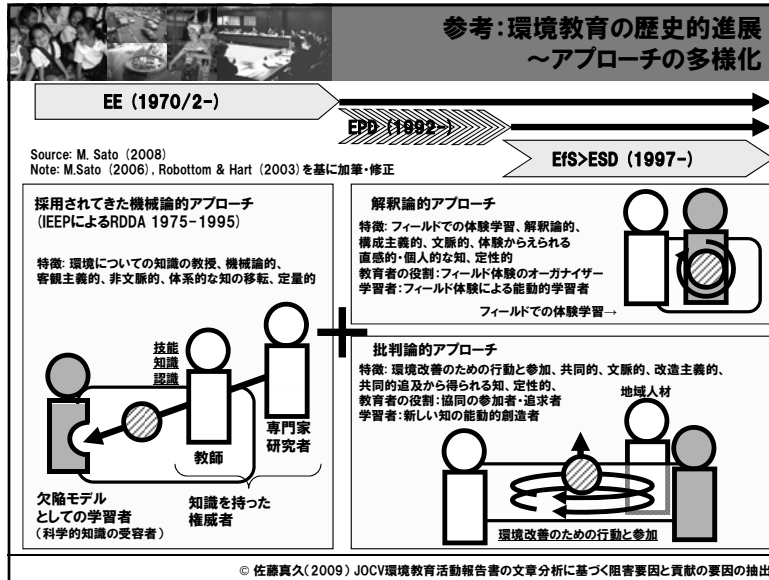
社会
e.g. employment, human rights, gender equity, peace and human security

経済
e.g. poverty reduction, corporate responsibility, accountability

横断的領域
e.g. HIV/AIDS, migration, climate change and urbanization

Source: M.Sato (2006)

© 佐藤真久(2009) JOCV環境教育活動報告書の文章分析に基づく阻害要因と貢献の要因の抽出





参考:BEGIN

表1:「成長のための基礎教育イニシアティブ」の概要

経済開発→社会開発→人間開発へ

1980年代:人間開発の役割認識

1990年代:WCEFA、WEF、DFA

【日本の動向】

■2002年:
「成長のための基礎教育イニシアティブ(BEGIN)」提言
G8サミット(カナダ・サミット)において日本政府発表

「自助努力支援」
「日本の教育経験の活用」
「現職教員の活用」

1. 支援に当たっての基本理念

(1) 途上国政府のコミットメント重視と自助努力支援

(2) 文化の多様性への認識・相互理解の推進

(3) 国際社会との連携・協調(パートナーシップ)に基づく支援

(4) 地域社会の参画促進と現地リソースの活用

(5) 他の開発セクターとの連携

(6) 日本の教育経験の活用

2. 重点分野

(1) 教育の「機会」の確保に対する支援

- 多様なニーズに配慮した学校関連施設の建設
- ジェンダー格差改善のための支援(女子教育)
- ノン・フォーマル教育への支援(識字教育推進)
- 情報通信技術(ICT)の積極的活用

(2) 教育の「質」向上への支援

- 理数科教育支援
- 教員養成・訓練に対する支援
- 学校の管理・運営能力の向上支援

(3) 教育の「マネジメント」の改善

- 教育政策及び教育計画策定への支援の強化
- 教育行政システム改善への支援

3. 日本の新たな取り組み

(1) 現職教員の活用と国内体制の強化(「拠点システム」構築事業)

(2) 国際機関等との広範囲な連携の推進

- ユネスコ支援、ユニセフ支援
- 世銀ファスト・トラック・イニシアティブへの配慮
- アフリカ教育開発連合(ADEA)への参加

(3) 紛争終結後の国連リにおける教育への支援

© 佐藤真久(2009) JOCV環境教育活動報告書の文章分析に基づく阻害要因と貢献の要因の抽出



参考:DFA

ダカール行動枠組み目標

我が国の教育経験

就学前教育の拡大・改善

2015年までに、すべての子どもの無償初等教育へのアクセス確保

青年および成人の学習ニーズに対する十分な対応

2015年までに成人識字率50%の改善と、成人の基礎教育へのアクセスの平等の確保

2015年までに初等中等教育における男女格差の解消
2015年までに教育の場における男女平等の達成

読み書き能力、計算の能力など教育のあらゆる面における質の向上

幼児教育

障害児教育

学校施設

職業訓練

女性教育

健康教育
(学校保健・学校給食含む)

家庭科教育

理数科教育

環境教育

教員研修制度

ダカール行動枠組みと日本の教育経験との整合性

© 佐藤真久(2009) JOCV環境教育活動報告書の文章分析に基づく阻害要因と貢献の要因の抽出